

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第6号について

本県のイチゴにおいて、チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens* (Johannsen) の発生が認められ、特殊報第6号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ (www.jpnpn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第6号

平成31年3月26日
鹿児島県病害虫防除所

- 1 病害虫名** チバクロバネキノコバエ
Bradysia impatiens (Johannsen) (syn. *B. difformis*, *B. agrestis*)
- 2 寄主植物名** イチゴ *Fragaria* × *ananassa* Duchesne ex Rozier (バラ科)
- 3 発生地および同定**
 - (1) 発生確認 平成30年12月
 - (2) 発生確認地域 鹿児島県薩摩川内市
 - (3) 同定機関 門司植物防疫所
- 4 発生状況及び被害状況**

鹿児島県内1か所のイチゴほ場(ハウス)において、葉の外縁が黄化・褐変し、枯死する株が認められ(図1, 2)、被害株のクラウン部を加害しているハエ目幼虫が確認された(図3)。本県のイチゴにおいて本種による被害は初確認である。
- 5 病害虫の特徴**
 - (1) 形態
本種はハエ目クロバネキノコバエ科の昆虫で、体長は雌成虫が1.9~2.3mm、雄成虫が1.8~2.1mmで、頭部は黒色、胸部と腹部は暗褐色、翅は褐色を帯びた透明である(図4)。老齢幼虫の体長は約4mmで、頭部は光沢のある黒色、体は白色を帯びた透明である。
 - (2) 寄主植物
バラ科(イチゴ)、ウリ科(キュウリ、メロン)、花き類(トルコギキョウ、パンジー)等多くの作物に寄生する。
 - (3) 被害
幼虫が根やクラウン部等を食害する。そのため、定植後新芽の伸びがよくない生育異常株を生じ、展開葉の葉柄は赤みを帯びる。クラウン部が湿っている状態が多い高設栽培などで被害事例が目立つ。また、幼虫の寄生・加害により花房及び新葉が黒変する。
 - (4) 生態
成虫は堆肥等の未熟な有機物に誘引され、産卵する。孵化した幼虫はこれを餌とし、大量発生した幼虫の一部がその後作物の地際部や地下部を加害する。本種は20~25℃では約15日で1世代を経過する。施設栽培ハウス等では周年発生する。
 - (5) 分布
国内におけるイチゴへの被害は三重県、長野県、長崎県、佐賀県、茨城県で報告されている。海外においては中国、東南アジア、アメリカ、ヨーロッパ、中南米、オーストラリアなど広範囲で発生が報告されている。
- 6 防除対策**
 - (1) 未熟な堆肥を施用すると成虫を誘引し産卵を促すので、完熟堆肥を施用する。また、有機物を含む基肥を施用する場合には十分に土壌混和する。
 - (2) 圃場周辺部に古株などの植物残渣、堆肥舎がある場合には、発生源になりやすいため、周辺の衛生に留意する。
 - (3) 幼虫の寄生がみられる葉や花を除去し適切に処分する。

- (4) ハウス内への侵入を防ぐため、ハウスの開口部に1 mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。
- (5) 薬剤防除を行う場合はミツバチへの影響に注意する。

7 参考文献等

- (1) 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構(2017) ネギネクロバネキノコバエ (*Bradysia* sp.)防除のための手引き(2018年改訂版)
- (2) Ye et al. (2017) Review of three black fungus gnat species from greenhouses in China
- (3) 茨城県病害虫防除所(2014)チバクロバネキノコバエの発生について. 平成26年度病害虫発生予察 特殊報第2号
- (4) 佐賀県(2012)チビクロバネキノコバエによるイチゴの被害について. 平成23年度病害虫発生予察 特殊報第4号
- (5) Menzel et al. (2003) *Bradysia difformis* Frey and *Bradysia ocellaris* (Comstock): Two Additional Neotropical Species of Black Fungus Gnats (Diptera: Sciaridae) of Economic Importance: A Redescription and Review. *Annals of the Entomological Society of America* 96(4):448-457
- (6) 笹川満廣・赤松学(1978) ハウス栽培植物の新害虫チビクロバネキノコバエについて. 京都府立大学農学部学術報告30号: 26-30.



図1 株の立枯れ症状



図2 発生圃場での被害状況



図3 幼虫によるクラウンの加害状況



図4 チバクロバネキノコバエ成虫(雄)